

COVID19 再感染について
— 当院での発熱外来患者より —

切東 美子
(摂津ひかり病院)

2020年から流行した SARS-Cov2 も5年目に入り、当院の発熱外来でも再感染患者が発生している。現場の先生方も少なからず再感染患者を診察されておられることであろう。では、再感染する人はどのような特徴を持っているのだろうか。2021年1月から当院の発熱外来を受診された患者2337人のうち再感染した人を抽出し、流行波と変異株との関係を調査した。さらに2023年6月に米国CDCのMMWRで発表された結果を参照し比較検討した。高齢者よりも若年中高年に再感染が多いのは米国と同じだった。若年者は高齢者と比較して重症度はかなり低い。患者全体での再発生率は高くなかったが、ワクチン未接種者で再感染する傾向があった。すべてオミクロン株の流行時期での再感染例でその期間は平均480日間と長く、免疫原性の変化がその理由と考えられる。今後は地域ごとのゲノム解析結果も一般医療機関で情報共有し、各地域の実情に合わせた感染対策につなげていくことが望まれる。